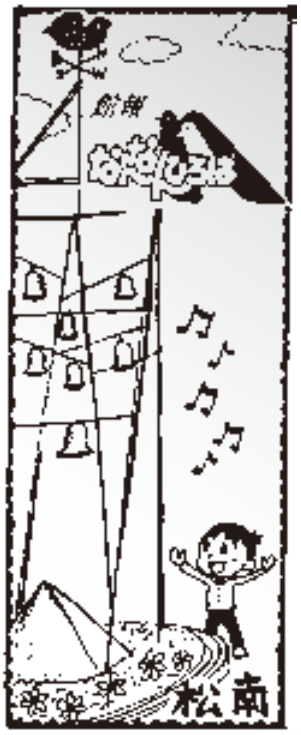

公民館報「松南版」50号

市公民館報は二ヶ月に一回発刊され全戸配布されていますが、同封されている松南地区版がこの7月号で50号となりました。

ご承知のように平成18年5月、庄内公民館（夢ひろば庄内）開館に伴い、南部版を分割して、「松南版」「庄内版」として独立して発行することになりました。第1号発行から8年が経過しました。

改めて松南地区を振り返ってみますと、昭和36年に松南地区町会連合会が発足して昨年50年の節目を迎えました。松南版ではシリーズで11回連続の「館報で綴る松南地区の50年」を特集しました。松南地区にお住まいの皆様に少しでもこの地区を知っていただき、好きになってほしいと願った企画でした。また、今年の3月末には町会連合会のご支援を頂き松南地区館報編集委員会・松南地区町内公民館が主体となって松南地区史跡ゾーン整備研究を行い、地区内に2ヵ所の案内看板設置と解説書（地区内全戸配布）を発刊することができ、改めて故郷の歴史を再確認しました。

公民館とは何か、新聞、会報、広報との違いは？難しい課題ですが、私の思いとして、公民館報は、地域住民が対象で、単なるお知らせ記事で無く、解説が必要で、地域の歴史、動き、課題、人物などを委員自ら取材し、中立性を持つことが大切と考えています。税金を使って、住民が企画・編集する館報です。町内・町会のちょっとした出来事が記事、写真に出来ればと思っています。

南部版の最終号当時の館報編集委員長は岡村博さん。松南版発足時の委員長は五十嵐惺（たかし）さんでした。50号発刊を機に岡村さんから「松南版創刊時は委員の減少、記事の不足等に苦労したことの思い出、地区内のそれぞれの組織のトップの方はしっかりしたビジョンを持ってほしい」の要望が寄せられています。

（塩原　保彦）

南部版の想い出と新松南版への期待

松南地区公民館長会会長
岡村　博

創刊号編集にあたって

編集委員長
五十嵐　惺

昭和63年から今年3月まで一八年間創り続けた館報南部版が、地区再編により新しく松南版として生まれ変わることになった。

創刊号編集の初仕事は、タイトルの背景を考えることから始まった。試行錯誤の末、編集部全体の意見として、なんなんひろばのシンボルであるカリヨンをデザインした画が採択されて創刊号はスタートした。

第1号

コラム　松南

公民館報の地区版、昭和63年7月30日号が中央版から独立して、南部（庄内、松南）版一号として発行され、今年一〇七号をもって最終号となった。5月30日号は庄内版一号、松南版一号として発行されることになった。因みに全市版、中央版は二百六十五号▼現在松南地区は、九町会で成り立っている。昭和36年連合町会が発足した当時は七町会（南松本一、二丁目、双葉、芳野、宮田東、中、西）で、その後昭和59年双葉南、昭和60年双葉西が加わった。松南地区が出来て四十五年変遷を重ね続けている。▼戦後疎開工場が引き揚げたり廃業した後、新たな工場、市営住宅、県営住宅、国道十九号線バイパス、学校、大型店、マンションと次々に建設が進む。神社、お寺、お墓のない街▼新しい町としての問題も多く抱えている。防災問題もそのひとつで、防災意識調査（集計未発表）も行われたが、災害は忘れた頃にやってくる。防災組織を作ることも大事だが、町会離れの進んでいるとき、ご近所付き合いが大切。例え一軒でもイザというときのご近所パワーは見逃せない。（塩）

8年間を振り返って

現館報編集委員の皆さんの座談会から…

―主な意見―

◇ネタ探しは以前も今も変わらないが、地区内にこまめに足を運ぶことが必要

◇読んでいただける記事とするために、見出しや、わかり易い表現が必要と再確認

◇公民館報が広報まつもと一緒に配布されるため、気が付かずに読んでいただけないことがある。工夫が必要。

◇館報編集委員になって地区を振りかえる良い機会となった。

◇記事の一つひとつが地区の歴史になるという思いが充実感に。

わがまちのお宝〈双葉町会〉

三つの至宝、町民の幸せを繋ぐ

S33・6、双葉町発足以来56年の歳月が流れ、歴代町会長、役員諸先輩各位の環境改善努力により、現在460世帯の住みよい町会として存立している。

◆**お宝①**

東西に走る幹線市道の両サイドに春、ソメイヨシノの古木に桜花が咲き誇り、秋、銀杏の黄葉と歩道に舞う様が人目を楽しませる。この並木通りは、H3・11に松本市の「都市景観賞」を受賞している。町会35周年作文コンクールで、小一A君の優秀賞の一部を紹介する。「僕は学校に行くとき、いちょう並木を通るのが好きです。今そこに、ぎんなんの実がいっぱいついています。なみき通りにつくと、ぼくのうちはもうすぐです…」

◆**お宝②**

並木通中央を北に入ると閑静な場所に公民館があり、その東側にS57・5に双葉町会が設置した道祖神が鎮座しています。公民館活動を中心に、児童・高齢者が融合することを願い、建立されたもので神前には四季の花々を植え、手入れを欠かしません。

◆**お宝③**

児童遊園、遊具の改装及び新設

S52設置以降、37年の歳月の経過は、遊具自体の金属疲労、サビを伴い、今年、松本市児童遊園補助制度を活用し、スベリ台等四基の再塗装、ベンチ・砂場の新設と一新しました。また、安全祈願の神事も行いました。

町会には百有余名の児童がおり、防火防犯、安全活用の徹底をPTA支部、地区子ども育成会などとも行っています。

三つの至宝が町会世帯の弥栄(いやさか)に繋がることを願っています。

（小林　智博）

ひと　松本吉弘さん

お住まいは野溝木工ですが、町会は宮田西町会で、今年は福祉対策部長を務めていらっしゃいます。私が初めてお会いしたのは平成十六年頃、寝たきり老人、介護者の集いの通知を持ってお伺いした時でした。「ごめんください」と玄関の戸を開けると、そこにギターがあり、カンナ屑を見てびっくりしました。お話しを伺うと、お母さんの介護のため、郵便局を早期退職され介護の合間を見ながら趣味で製作しているとのこと。奥様が代わりにフルタイムで働いてくれているから大好きな趣味に没頭できありがたいとおっしゃっていました。

秋（十一月）、町会の文化祭に是非…とお願いしたところギターと一弦を展示され、演奏も聞かせていただきました。独学で一弦楽器の考案をして演奏もできる…素晴らしい趣味をお持ちと感動しました。

平成十九年には市民タイムスで紹介されましたし、平成二十二年にはタウン情報にも楽器を作り始めたきっかけが詳しく紹介されました。

六月の松南地区福祉ひろばのふれあい健康教室の当番が宮田西町会だったので、松本さんに出演を依頼したところ快く受けていただきました。初めて聞くその素晴らしい演奏、音色に感動し、六曲ほど全員で合唱しました。

一本の弦を右手で張力を加減しながら音を出す、素敵な趣味をお持ちですので、これからもずっと続けて演奏活動をお願いしていきたいと思います。最近、今持っているものより少し大きなものを製作中と伺いました。新しい楽器での一弦演奏会や伴奏で合唱するのを楽しみにしています。

（高橋　愛子）

コラム松南

我が家にはテレビが無い。目が疲れやすいので、少しでも負担をかけたく無い思いで、一人暮らしを機会にラジオのお世話になることにした。かれこれ十六年。静かで快適な今の生活に満足と感謝の日々を送っている。

子供や友人達には「寂しくないの？」と聞かれ、朝ドラや大河ドラマの話題には付いていけないが、目に優しいこの生活には替えられない。

まず、場所を取らない。メガネがいらない。聞きながら何でもできるラジオは本当にありがたい情報提供メディアである、災害時には特に無くてはならない存在となり、頼もしさを発揮してくれる。

ダイヤルを回して選局し、程良い音量にして聞いていると、親の庇護のもとに合った懐かしい時代を思い出す。これぞ至福の時間。

二年に一度位は放送局の担当者から訪問を受けるが、テレビが無いことなど考えられないらしく、「受信料を払わないと法に触れます」と厳しい指摘をされ、少し押し問答させていただいていますが…

（務台　亨子）